

Title	日本におけるNGOの現状と今後のあり方-情報の仲介機関の重要性-
Sub Title	
Author	櫛木明(Ichiki, Akira) 中村洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1406号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1406

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	中村研究会	学籍番号	89728072	氏名	櫛木 明
(論文題名)					
<p style="text-align: center;">日本における NGO の現状と今後のあり方 - 情報の仲介機関の重要性 -</p>					
(内容の要旨)					
<p>近年日本において様々な災害が発生し、その度にボランティア達の活動がクローズアップされてきている。様々なメディアで日本のボランティア組織 (NPO=Non-Profit Organization ; 非営利組織) の活動が報道されているが、全ての NPO がうまくいっているという保証はない。今回の論文では、その範囲を単なるボランティア活動ではなく、国際的に重要な問題をテーマとして活動している NGO (Non-Governmental Organization ; 非政府組織) に絞って現状認識と問題の把握、そしてそれらの活動が今後活性化していくための提言を行うことを目的としている。</p> <p>まず日本での NGO 活動の現状はどうなっているのかを、NGO、一般市民、企業の三者に対してアンケート調査を行い明らかにした。その結果から以下のことが判明した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市民サイドでは何らかの形でボランティア活動に携わりたいと考えている人は多いが、企業はどちらかというとき消極的なスタンスである。 ② 実際に参加した経験者は少ない。 ③ 意欲があってもボランティア活動に関しての情報が少ないためにどのようにボランティア活動に参加したら良いか分からない。 ④ 機会があったとしてもその活動が正当なものかどうか不安である。 <p>このアンケートの結果から、NGO とボランティアへの参加者や寄付を行おうとしている人々の間に、「情報の非対称性」が存在することが明らかになった。そしてそれを解消するには情報を仲介する機関を設立することが必要であることを示した。</p> <p>更に事例研究を行い、情報の仲介機関の具体像としては以下のものを挙げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 図書館型 ② 認証機関型 ③ 会員制方式 ④ 広告代理店方式 <p>上記の 4 つの具体像はそれぞれ問題点を抱えており、それを示して今後の方向性を検討した。</p>					